



思いをつなぐ いのちをつなぐ

t s u n a g u

つなぐ

3.11 を忘れない  
今、わたしたちにできること



Vol. 3  
2014. 1  
発行  
つなげよう  
脱原発の輪  
上越の会

『汚染水』の原因となる地下水の量が、柏崎刈羽原発では福島第一原発のなんと『3倍』もあることが、この度の県知事申入れで判明しました！



※一日あたりの地下水の汲み上げ量…福島第一原発：約 800~1,000 m<sup>3</sup> 柏崎刈羽原発：約 2,600 m<sup>3</sup>

## 柏崎刈羽原発の再稼働反対と廃炉を求める会

呼びかけ団体として 10月24日

### 新潟県庁にて泉田県知事に申入れ

発起人植木代表を含む9団体21名により、中間集約で集まった「19,856筆」の署名を提示するとともに、知事に対し、署名の要望項目に加えて「県民の安全第一の立場を堅持すること」などを求める要請書の全文を読み上げました。応じた県の担当者は、「知事はかねがね、『知事の職務の第1は、県民の安心安全を守ることである』と述べており、我々もその立場でやっていきたい。また知事は『福島原発事故の検証が先』と表明しており、それが明らかにならないと同じことが繰り返される。検証が終わらないと、再稼働の議論はできない。それと表裏の関係になるが、廃炉についても議論する状況にない。県としては地球温暖化やエネルギー供給のリスク分散のため地域資源を活用し再生可能エネルギーの導入・拡大を図り、それを雇用創出に結びつけるため新潟版グリーン・ニューディール政策を進めているところである。」と回答しました。その後、詳しく質疑応答を行い、最後に担当者に対し、「本日の要請書と本日のやり取りの要旨を知事の机に乗せること」、「次回、泉田知事との直接対話」を要望しました。(申入れの様子は新聞4社テレビ局4社などにより広く報道されました。)



(上) 要請文を読み上げる植木代表。  
(左) 県に提示された署名用紙  
(19856筆)

## 今後の県知事署名活動

2次締切… 3月11日 2次締切時目標数… 7万筆(最終目標 10万筆)

今後は賛同団体、署名協力団体を増やし、もっともっと大きな運動にしていくことを合同会議で決意しました。2次締切の申し入れでは泉田知事に直接対話を求めていきます。

なお、署名は、単に行政や議会に対する意思表示のみならず、署名活動を通じて直接市民と原発について対話するためのツールと考えています。注目を集め興味を惹くような集会と、署名のような地味な草の根運動で、まだまだ低い世論を高め、そして、各団体や個人で行う技術的・専門的な主旨内容の要請行動により、初めて脱原発が実現するものと思えます。ぜひご協力お願いいたします。

開催  
しました

## 上越市・原子力防災説明会 with つなげよう脱原発の輪・上越の会

at 上越市市民プラザ 2013年12月17日

当会では、上越市地域防災計画（原子力災害対策編）と、「広報上越」9月1日号に掲載された原子力防災対策について、お話を聞かせていただきたいと、市の防災担当者の方を招いて説明会を行いました。

当日は当会賛同人17名が参加し、市から説明を受けた後、質疑応答を行いました。上越市の原子力防災対策については、内容が膨大のため、こちらでは載せきれませんので、市のホームページまたは、市の広報誌2013年9月1日号をご参照下さい。今号では、市民から出された質問と市から頂いた返答を、紙面でご紹介します。（今回載せきれなかったものにつきましては、次号以降で取り上げる機会があればと考えています。）



左から  
防災危機管理部  
防災計画課  
原子力防災対策室  
五十嵐さん  
笠松さん

### ★ 原子力防災対策 質疑応答 ★

**Q1:**避難する場合、市職員等が主体的に先導するためには、職員全体がこの防災計画をきちんと理解していないといけないと思います。全員に周知徹底できると考えていますか？

**Q2:**レジュメには、放射能、放射性物質とはどんなものかという説明がほとんどないが、そのような知識を盛り込まなくても大丈夫か？また、市職員や先導役となる人々がきちんと放射能などについての知識を持っていないといけないと思いますが、大丈夫か？

**A:**地域防災計画については各課に配布し、内容を確認するよう話してあります。また研修も行っており、放射線を測る機器の取り扱いについての研修、原子力防災についての流れや基礎知識の研修なども行っており、今後も研修計画を作成し、行ってきたいと考えています。

**A:**放射能についての知識については研修会等で行っています。

### ◇ 解説：「原子力防災対策」 ◇

上越市は2013年3月に「上越市地域防災計画 原子力災害対策編」を策定し、年度末を目標に市民に配布するパンフレットを作成中です（妙高市、糸魚川市でも「原子力災害対策編」を現在策定中）。ところで、この「原子力災害対策」はどのような流れで作られるのでしょうか。

まず、策定の根拠は「災害対策基本法」。原子力災害については1999年に「原子力災害対策特別措置法（原災法）」が施行され、福島第一原発事故後2013年6月に改正されています。「原災法」に基づき「原子力規制委員会」では「原子力災害対策指針（指針）」を定め（2013年9月に改正）。これに則って国の「防災基本計画原子力災害対策編」があり、県の「地域防災計画 原子力災害対策編」が作られます。各市町村は、規制委員会の「指針」、国、県の「原子力災害対策編」に基づいて、それぞれの地理的条件などの諸条件を踏まえながら「原子力災害対策編」を策定します。当然のことながら、これには原子力事業者が災害時に取るべき措置も規定されます。

でも「原子力災害対策編」が策定されたからといって、市民の安全が確保されるわけではありません。上越市でも、実効性を確保するための課題として、避難先の確保、避難ルート、移動手段の確保、緊急時モニタリング体制の整備、緊急被曝医療体制の整備等を掲げています。具体的な「避難計画」はこれから作られて行くことになります。

ここで目を向けなければならないのは、具体的な「避難計画」がそれぞれの地域に応じて作られたとしても、それで「安心」ということにはならないということです。過酷事故が一旦起きてしまえば、チェリノブイリの例を見ても、福島第一原発事故後の現状を見ても、かりに計画通りの避難ができたとしても被曝を100%逃れる保証はなく、また汚染は確実に進んでしまいます。しかも原発事故は原発の稼働中に起きるばかりでなく、稼働していなくても、そこに使用済み核燃料等が山のようにある限り、いつでも起こり得るのです。当然のことながら「原子力災害対策」は可能な限り「万全」を期す必要がありますが、いくら「万全」の「原子力災害対策」が立てられようと、だからといって、それは「再稼働」のための条件にならないのです。私たちが「原子力災害対策」を考えるとき、いつもこのことを念頭に置かなければなりません。

**Q3:** 避難する際には、雨に気をつけなければいけないが、そのような注意書きがない。

**A:** 避難方法については、国、県、市町村等と課題を出しながら考えています。尚、地域防災計画自体は、市や県、関係機関等が防災のためにどのように動くかということを目的に作られているので、市民の皆さんに知っておいて頂きたい必要なことについては、パンフレット等で周知していきたいと考えています。

**Q4:** 市販のマスクで放射性物質は防御できるのか？

**A:** 福島での現場の様子を見ると、特殊なマスクを使用されています。市販の一般のマスクの多くは、飛沫感染防止用マスクのことで、放射性物質（放射性粉じんなどの微粒子状物質）は防げません。放射性物質を防ぐには、防じん用のマスクなど専用のマスクが必要です。

**Q5:** 避難に必要なものが、他の非常時に必要なものと変わらない気がするが、これ以外に必要なものはないのか？

**A:** 基本的には、他の災害と同じです。今後必要なものがあれば随時追加していきます。

**Q6:** 地震による津波が想定される場合、避難計画はどうなるか？

**A:** 地震や津波、積雪期など複合的な事象が重なった場合の対策についても、地域防災計画に掲載しています。実効性のある屋内退避や広域的な避難を実現するためには、市域を超えた避難先・避難ルート確保や安定ヨウ素剤の服用基準など広域的な調整や統一した対応が必要な課題が多く、国、県、市町村等が連携して検討しているところです。複合災害を想定した対応についても今後、検討することとしています。

**Q7:** 大雪が降って除雪ができていない状態で避難となった場合、どうすればよいか？

**Q8:** 地震等により道路が寸断された状態での避難を想定しているのか？

**Q9:** 地震による事故の場合、停電した場合の通信手段（スピーカー、電話）はどうするのか？

**A:** 緊急ラジオを常時コンセントにつなぎ、携帯もできるような電池を入れるようお願いしています。本庁には自家発電設備を備えています。

### ～上越市・防災担当者の方からの感想～

〈 五十嵐さん 〉

皆さんから貴重なご意見いただきました。今後に生かしていきたいと思っています。ありがとうございました。

〈 笠松さん 〉

みなさんの質問に対し、明確な回答がなかなかできないのが正直、今の現状です。ただ、そこに原発がある限り、行政としてはこういった計画を作る必要があり、その中で、どうしたら実効性のある計画を立てられるか、今考えているところですので、ご理解いただきたいと思います。

### ～説明会を終えて～

原子力防災について考えれば考えるほど、その困難さに行きつかざるを得ない。でもさまざまな状況を念頭に置きつつ防災計画は作られなければならない。どのように知恵を働かしても「完璧」な計画はあり得ず、住民の不安は消えない。「策定担当者のご苦労ははかり知れない」というのが率直な感想だ。「核エネルギー」を導入してしまった人類のジレンマ。私たちは将来世代のためにこのジレンマに耐えなければならない。そして一刻も早く「核エネルギーからの脱却」を図らなければならない。

(司会担当:片岡)



## 《 活動報告 》

### 10/13 東京・上越一斉4か所で署名活動

東京の日比谷公会堂で行われた、「10.13NO NUKES DAY 原発ゼロ☆統一行動」に県知事署名協賛団体である「柏崎刈羽原発の再稼働反対と廃炉を求める会」から、14名の方が上京し(当会からは4名)、会場にて署名活動を行うとともに、巨大デモにも参加しました。また、地元でも、高田世界館、お馬出し会場、てくてくまつりの3ヶ所で署名活動を行い、当会としては合計1,137筆の署名をいただくことができました。

### 11/6 原子力規制委員会に要請文を手渡しました

他団体の呼びかけに応じた、当会を含む9団体13名が合同で参加し、原子力規制委員会に申入れを行いました。当会も作成した合計5通の要請文がその場で読み上げられ、「規制委員会は柏崎刈羽原発の適合審査を行わないこと」を強く要望しました。

### 11/23 秘密保護法に反対する集会に参加しました

自由な表現や市民活動をも制限する「秘密保護法」が国会に上程、採決されることに反対するため、雁木通りプラザで行われた集会に参加しました。会場には緊急にもかかわらず104名の方が参集しました。会場では、当会からもメッセージとして反対アピール文を読み上げました。



## 私の思い



「福島に足をはこんで」

豊島 信

3.11以降、たまたま縁あって福島へ足を運ぶことになった。福島の方々が抱えている問題は並々ならぬものがある。子どもの健康を気遣い自主的に非難された方は故郷を捨てたと後ろ指を指され、なんとか地元で生きようとそれぞれに苦労されているにもかかわらず「福島は人の住むところではない」として非難される。避難先でも大きく声をあげることができずひっそりと経済負担の大きい二重生活を余儀なくされ、同じ福島の中でも放射能の考え方には温度差があり沈黙せざるを得ない状況だ。これは原発だけの問題ではない。政治、教育、医療…、あらゆる分野においても「経済」が中心となっている私達一人一人の生き方そのものが問われている。そして何気ない私達の日常生活は、多くの犠牲と差別によって成り立っていることも忘れてはならない。

プロフィール：真宗大谷派僧侶。当会賛同人。高田有志会を結成して、震災当初から毎月、宮城、福島へ支援物資を届け、炊き出しを行うなど息の長い支援を続けている。また、子どもたちの長期休みには放射能被曝の軽減のため、上越に保養に招く支援も行っている。

## 《 募集中 》

### ◆ 支援物資・カンパ・ボランティア

任意団体「高田教区震災支援有志会」は、福島で生活物資を必要としている人たちのための青空市場(福島県二本松市)に毎月物資を届けたり、現地で炊き出しなどを行っています。詳しくはお問い合わせください。  
連絡先 豊島さん(090-7270-4078)

## 《 当会の今後の予定 》

### ◆ 一斉戸別訪問署名(デリ署名)実施中

10万人署名(二次締切3/11)に向けて、一斉署名デーとして毎週日曜日に戸別訪問署名活動を行っています。自分のやりたい町内を申告し、同日に一斉に行きます。ぜひご参加下さい。(日曜が無理の場合は各自都合の良い時に行きます。)

日時:毎週日曜日 14:00~16:00

会場:各自ご自由に

実施の前に大坪までご連絡下さい。

(携帯:090-7001-6743または

PCメール:kazue18yes@yahoo.co.jp)

### ◆ 勉強会

毎月第一日曜日 14:00~16:00

会場 上越市市民プラザ

### ◆ 事務局ミーティング

毎月第三金曜日 19:00~21:00

会場 上越市市民プラザ 2F

誰でもが気軽に参加できる場です。

ぜひお出かけください。

## 《 お願い 》

★ 会報「つなぐ」を置いて下さるお店や場所を募集しています。ぜひご紹介下さい。

## カンパ募集中です

活動資金が大変ひっ迫しています。

息の長い活動を続けていくために、ぜひカンパをよろしくお願い致します。

ゆうちょ銀行 11260-13169471

名義・つなげよう脱原発の輪上越の会

### 編集後記

昨年、秘密保護法反対の嵐が吹き荒れました。多くの国民の不安や疑問を払拭しないままに、法案は可決されてしまいました。でも、世の中おかしなじゃない!と言う国民の声がある限り、誰も法律でその声を止めることはできないと思います。私たちの脱原発の活動もしかりです。(K)

## つなげよう脱原発の輪

## 上越の会

代表 植木 史将

090-4962-9633